

リリースノートについて

JMP 10.0.2は、機能の拡張、バグの修正、新機能を加えたメンテナンスリリースです。本リリースで修正された問題の一部を以下にリストします。このリストは、10.0.2における修正点の種類を紹介するためのもので、修正点をすべて網羅しているわけではありません。ユーザからの報告、再現可能なシステムエラー、数値エラーについては、ほとんどが修正されています。JMPをインストールしたすべてのコンピュータに、このメンテナンスリリースを適用することをお勧めします。

新機能

- グラフビルダーの赤い三角ボタンメニューに、[自動伸縮] オプションが追加されました。このオプションは、ウィンドウサイズに合わせて、グラフのサイズを自動的に伸縮させるかどうかを設定します。
- 「時系列分析」プラットフォームの環境設定において、自己相関（ACF）と偏自己相関（PACF）のプロットに対して、0ではなく1からラグを開始できるようになりました。この環境設定を選択すると、ACFとPACFのプロットが、ラグ1から開始されます。選択しなかった場合は、ラグ0から開始されます。[ファイル] > [環境設定] > [プラットフォーム] > [時系列分析] をクリックし、[自己相関プロットでラグ0を非表示] チェックボックスをオンにすると、ラグ1から開始されます。このチェックボックスは、デフォルトではオフになっています。
- JSL関数のSAS Submit() 関数に、Interactiveオプションが追加されました。このオプションを指定すると、SASの対話的なプロシジャを実行した場合、JMP側で出力が表示されても、その対話的なプロシジャは終了せずに継続されます。
- SAS データセットをJMPに読み込む際、WEEKV、WEEKW、WEEKU フォーマットが付けられた変数も、日付値データと認識されるようになりました。SASデータセットにおいて、これらのフォーマットが使われている変数は、JMPに読み込まれるときに、日付値データとして認識されます。なお、このとき、JMPでは、「ロケールの日付」表示形式が割り当てられます。
- JMP Proでは「モデルのあてはめ」プラットフォームでも、[PLS回帰] が用意されていますが、そこで、応答曲面の効果を指定できるようになりました。この機能を用いるには、JMP Proにおいて、[分析] > [モデルのあてはめ] をクリックし、手法のリストから [PLS回帰] を選択します。次に、[マクロ] のリストから [応答曲面] を選択します。

ローカライズ

- 日本語のマニュアルとオンラインヘルプが作成されました。
- スペイン語版（カスティーリャ語）のユーザインターフェースと『はじめてのJMP』が作成されました。
- 簡体字中国語の『基本統計およびグラフ』と『JMPの使用法』が作成されました。

全般的な改善

- ジャーナルの凡例の項目が、元のレポートウィンドウと同じように折り返して表示されるようになりました。凡例の折り返しを調整するには、凡例を右クリックし、[凡例の設定] を選択した後、[折り返しのアイテム数] を指定します。
- 列名にタブ、改行、キャリッジリターンが含まれている Excel ファイルも、JMP Excel アドインと Excel プロファイルで正しく読み込むようになりました。

- スプレッドシートで 1904 年から計算する日付システムが使用されている場合でも、Excel プロファイルを使ってデータを正しく JMP に読み込めるようになりました。Excel の JMP リボンにある**データテーブル**のボタンを使用してください。
- JMP からサブミットした場合の SAS マクロの処理効率が向上し、以前より速く動作するようになりました。
- ODS をオンにしてローカルまたはリモートの SAS サーバーに非同期の SAS コードをサブミットする処理が、より確実に機能するようになりました。

統計分析とグラフ

- 「バブルプロット」プラットフォームにおいて、ラベルのフォントサイズを変更したときに、変更が即座に反映されない問題が修正されました。ラベルのフォントサイズを変更するには、バブルプロットを右クリックし、**[カスタマイズ]** > **[カスタム]** > **[フォント]** > **[サイズ]** を選択します。
- 「変動性図/計数値用ゲージ」プラットフォームで作成した変動性図をコピーし、Microsoft Word などに貼り付けた場合に、X 軸の表示がおかしくなる場合がある問題が修正されました。
- 「管理図」プラットフォーム (**[分析]** > **[品質と工程]** > **[管理図]**) において、「フェーズ」の列を用いた場合に、特殊原因テスト (ネルソンルール、ウェストガードルール) で異常となっている点が、正しく検出されないという問題が修正されました。この機能を用いるには、管理図のアウトラインにある赤い三角ボタンをクリックし、**[テスト]** または **[ウェストガードルール]** を選択します。
- 「予測プロファイル」プラットフォームで保存されたスクリプトを実行したときに、指定した設定ではなく、カテゴリカル変数が一番初めの水準に設定されることがあるという問題が修正されました。現在は、スクリプトの **Term Value()** コマンドで指定された設定が、正しく反映されます。
- 「一変量の分布」プラットフォームの **[平均の検定]** と **[割合の検定]** において、仮説値を空白のままにした場合、間違った p 値が表示されるという問題が修正されました。平均の検定は、連続変数に対して、赤い三角ボタンのメニューから **[平均の検定]** を選択すると実行されます。また、割合の検定は、カテゴリカル変数に対して、赤い三角ボタンのメニューから **[割合の検定]** を選択すると実行されます。
- 「Gauss 過程」プラットフォームの起動ダイアログにおいて、**[相関構造]** オプションのコンボボックスが使えないという問題が修正されました。このコンボボックスでは、相関構造として、「三次」または「Gauss」を選択できます。この機能を用いるには、**[分析]** > **[モデル化]** > **[Gauss 過程]** を選択し、起動ウィンドウの **[相関構造]** コンボボックスで相関構造の種類を選択します。
- 「モデルのあてはめ」プラットフォームで変量効果モデルを推定するときに、EMS 法を選択し、かつ、データテーブルに除外された行がある場合に、JMP が異常終了する問題が修正されました。この機能を用いるには、**[分析]** > **[モデルのあてはめ]** を選択します。いずれかの効果に **[属性]** のリストから **[変量効果]** の属性を割り当てると、起動ダイアログの右上に **[REML]** と **[EMS]** の手法オプションが表示されます。
- 「判別分析」プラットフォームにおいて、By 変数を指定した場合でも、データテーブルに計算式を保存できるようになりました。この機能を用いるには、**[分析]** > **[多変量]** > **[判別分析]** を選択します。そして、判別分析の計算式を保存するには、**[スコアオプション]** > **[計算式の保存]** を選択します。
- 「表の作成」プラットフォームにおいて、**[カテゴリごとの列]** を指定して、かつ、その表からデータテーブルを作成した場合、JMP が異常終了する問題が修正されました。この機能を用いるには、**[テーブル]** > **[表の作成]** を選択し、次に該当するカテゴリを選択してドラッグし、「**行のドロップゾーン**」にドロップします。表からデータテーブルを作成するには、「表の作成」の赤い三角ボタンのメニューから **[データテーブル出力]** を選択します。
- 「表の作成」に用いたデータテーブルの列を、表を作成した後に削除すると、エラーメッセージが表示されたり、データテーブルが元の状態に戻ったりするという問題が修正されました。

- 「表の作成」において、グループの列を指定しないのに、[列 %] と [行 %] を指定した場合、JMP が異常終了するという問題が修正されました。このように計算ができない場合には、その旨のエラーメッセージを表示し、それらの指定を取り消すようになりました。
- 「グラフビルダー」において、複数の Y 変数に対するヒストグラムを並べて表示する場合に、すべてのヒストグラムで棒の幅を同じにして描くように変更されました。

管理図ビルダー

- [標本サイズの設定] オプションを使うと、管理図のサブグループのサイズを設定し、個々の測定値の管理図から X Bar 管理図にすばやく切り替えられます。「管理図ビルダー」の赤い三角ボタンのメニューと、管理図を右クリックしたときに表示されるメニューの 2 箇所からこのオプションを選択できるようになりました。このオプションは、サブグループ変数がない個々の測定値の管理図にだけ表示されます。
- グラフを変更した際、それより前に右クリックのメニューから加えた変更がリセットされてしまう問題が修正されました。リセットされなくなったものには、[点] > [点の表示]、[限界] > [限界を表示] / [中心線の表示]、[折れ線] > [点をつなぐ]、[行] および [グラフ] メニューにあるマーカーのオプションが含まれます。
- Y 変数が 2 つ指定されている場合、「限界の要約」レポートを非表示にするために [限界の要約を表示] オプションを選択しても 2 つ目の Y 変数のレポートが非表示にならない問題が修正されました。このオプションは、「管理図ビルダー」の赤い三角ボタンメニューから選択できます。

スクリプト

- TableBox に行を追加すると、NumberColEditBox の値が編集できなくなるという問題が修正されました。
- Execute SQL() 関数の第 1 引数に、異なる型の引数を指定すると、JMP が異常終了するという問題が修正されました。この場合、欠測値が戻されるようになりました。
- Button Box() 関数において、ボタンにイメージファイルを指定したとき、ボタンを含むレポートをジャーナルにした後、選択ツールによってボタンを移動させると、ボタン上のイメージが表示されなくなるという問題が修正されました。
- SAS ライブラリ参照を割り当てた後、SAS Deassign Lib Refs() 関数によって割り当てが解除できない問題が修正されました。

アプリケーションビルダー

- ローカルフィルターを持つレポートを他のレポートと結合させ、フィルター変数を追加した後アプリケーションの編集を行おうとすると JMP が終了してしまう問題が修正されました。結合させたレポートウィンドウの赤い三角ボタンメニューから [アプリケーションの編集] を選択すると、編集が行えます。
- 変数名には、大文字と小文字の区別があり、スペースも考慮されます。ボックスまたはレポートで使用する変数名には大文字と小文字の区別があり、スペースも考慮されていましたが、これらの大文字／小文字の区別がなくなりました。新しいボックスを追加し、新しい名前が必要になると、JMP は、すでに使われている名前の中に同じ名前がないか、大文字／小文字、スペースの有無の違いは考慮せずに検索します。